

令和 8 年度

第 1 回保護林管理員会 資料

とき：令和 8 年 7 月 1 日～ 2 日

中部森林管理局

令和8年度 第1回中部森林管理局保護林管理委員会

会 議 次 第

令和8年7月1日（水）9：15
～令和8年7月2日（木）15：45
長野県松本市・岐阜県高山市

- 1 開 会
- 2 計画保全部長挨拶
- 3 保護林現地検討
 - ・ 上高地ケショウヤナギ希少個体群保護林の現況について
保護林内での工事の現況確認
 - ・ 乗鞍岳生物群集保護林の現況について
乗鞍岳五ノ池周辺の利用について意見交換
- 4 その他
 - ・ 報告事項等について
- 5 閉 会

出席者名簿

保護林管理委員

(※五十音順)

氏 名	役 職
安藤 正規 (あんどう まさき)	岐阜大学応用生物科学部 准教授
磯田 圭哉 (いそだ けいや)	国立研究開発法人森林研究・整備機構 森林総合研究所林木育種センター遺伝資源部長
植木 達人 (うえき たつひと)	信州大学 名誉教授
奥 敬一 (おく ひろかず)	富山大学学術研究部 教授
西條 好迪 (さいじょう よしみち)	一般財団法人自然学総合研究所顧問・理事
竹中 千里 (たけなか ちさと)	名古屋大学 名誉教授
堀田 昌伸 (ほった まさのぶ)	日本野鳥の会長野支部
由井 正隆 (ゆい まさたか)	長野県木材協同組合連合会 理事

中部森林管理局

氏 名	役 職
津脇 晋嗣 (つわき しんじ)	計画保全部長
藤原 淳一 (ふじはら じゅんいち)	計画課長
藤井 勝 (ふじい まさる)	保全課長
近江澤利美 (おうみさわ としみ)	生態系管理指導官
大橋 孝宏 (おおはし たかひろ)	計画調整官
古賀 有紀 (こが ゆき)	生態系保全係長

中信森林管理署

氏 名	役 職
高塚 慎司 (たかつか しんじ)	中信森林管理署長
堀内 志保 (ほりうち しほ)	中信森林管理署 総括森林整備官

飛騨森林管理署

氏 名	役 職
辻井 正徳 (つじい まさのり)	飛騨森林管理署長
門原 秀人 (かどはら ひでと)	飛騨森林管理署 森林技術指導官
志水 茉衣子 (しみず まいこ)	飛騨森林管理署 町方森林事務所森林官

令和 8 年度 第 1 回保護林管理委員会（現地検討会） 行程表

令和 8 年 7 月 1 日（水）【1 日目】

中信署			官用車		上高地河童橋周辺 ビクターセンター 昼食等		官用車		上高地ケシヨウヤ ナギ希少個体群保 護林		官用車		中信署		官用車		東横イン 東口	
集合	出発		52.0km 90分	到着	出発	・ 駐車場周辺のビ ジターセンター見 学や昼食時間とし て1 時間半 ・ 昼食は各自用 意。食堂利用も自 由	2.5km 20分	到着	出発	・ 昨年度、中信署 より申請があった 保護林内の工事予 定力所等視察	52.0km 90分	到着	出発	・ ホテルへ移動	3.0km 15分	到着	委員ホテル 【東横INN松本駅 東口】	
9:30	10:00	11:30		13:00	13:20			15:00	16:30			17:00	17:15					
・ 開会 ・ 委員集合場所 （委員駐車場） ・ 委員乗車																		

令和 8 年 7 月 2 日（木）【2 日目】

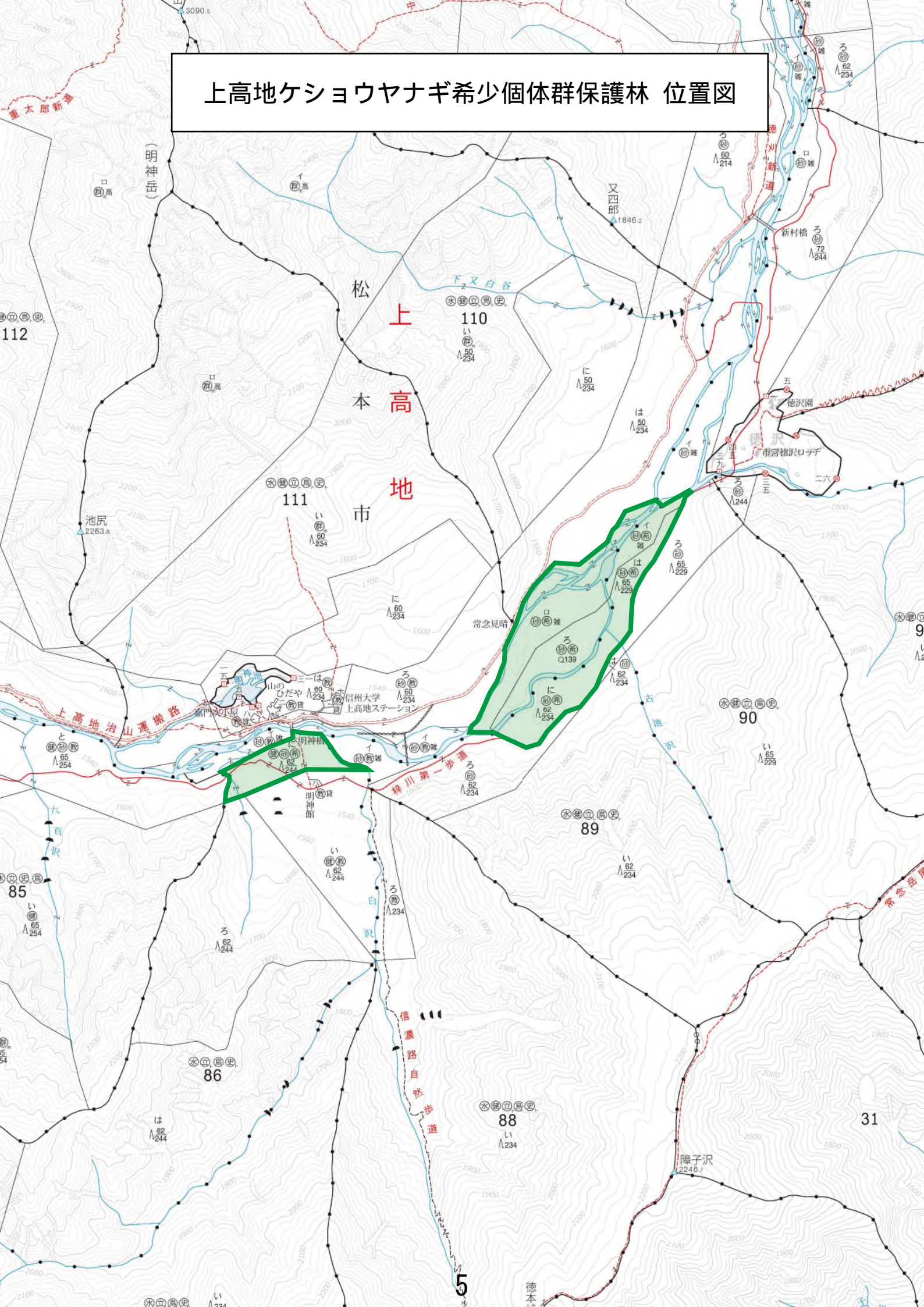
東横イン 松本駅東口	官用車	乗鞍～肩の小 屋～五ノ池		官用車	中信署
		出発	到着		
		7:30	15:30		
・分車乗車	75.0km 140分	70.0km 120分	・閉会 部長挨拶等		

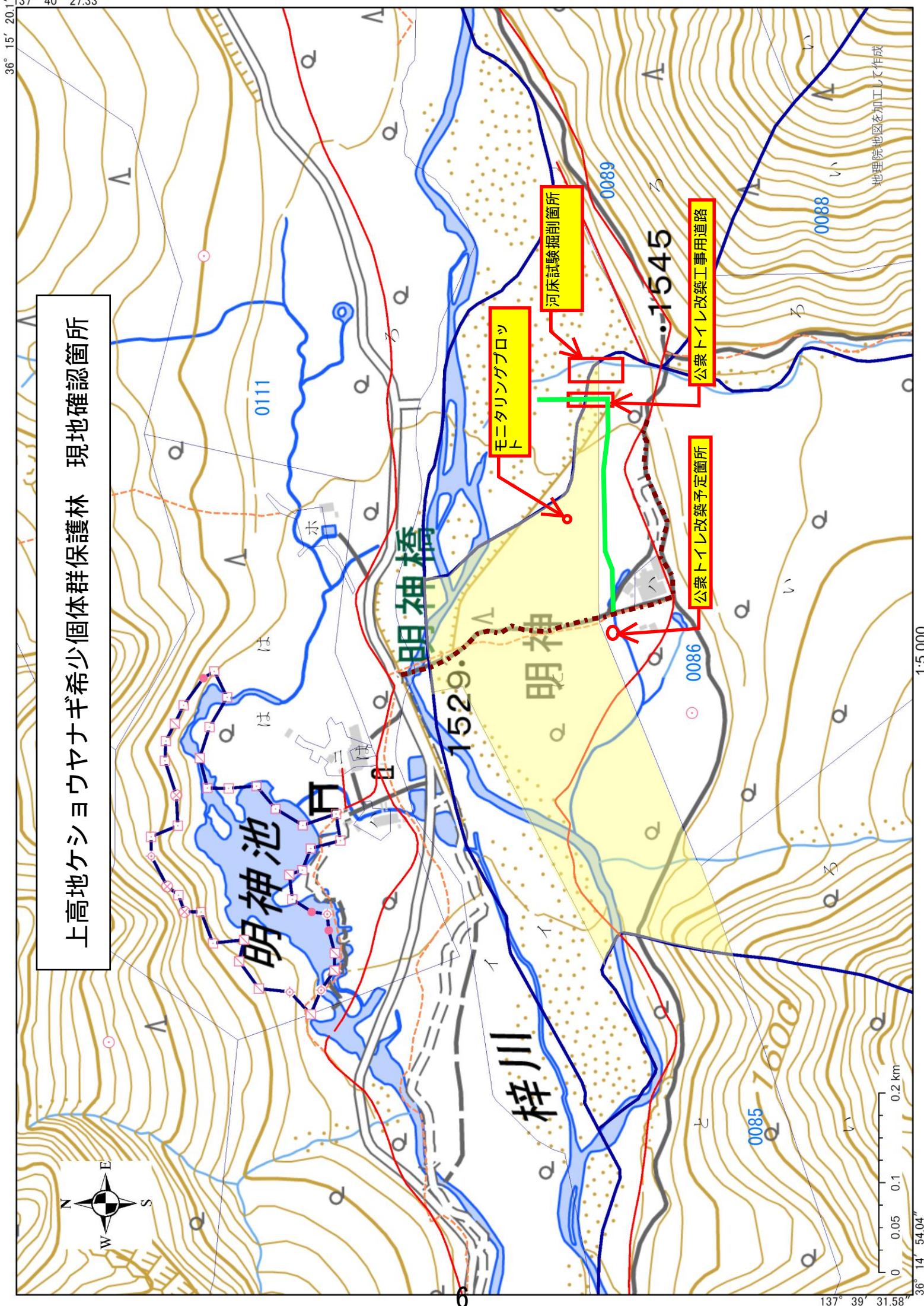
上高地ケシヨウヤナギ希少個体群保護林 の現況について

①上高地明神公衆トイレ改築に伴う工
事用道路の建設

②河床上昇緩和対策試験掘削

上高地ケショウヤナギ希少個体群保護林 位置図





上高地ヶシヨウヤナギ稀少個体群保護林 現地確認箇所

地理院地図を加工して作成

1:5,000

保護林内行為報告①

行為名：上高地明神公衆トイレ改築に伴う工事用道路の建設

○保護林名：上高地ケシヨウヤナギ希少個体群保護林

○申請者：松本市長

○目的：老朽化した明神公衆トイレを再整備し、適正なし尿処理機能（浄化槽）を確保するとともに、上高地の歩道利用者にとって不可欠で快適な便益施設としての機能を向上させるため。

○工事概要

用途面積：6,845.8 m²

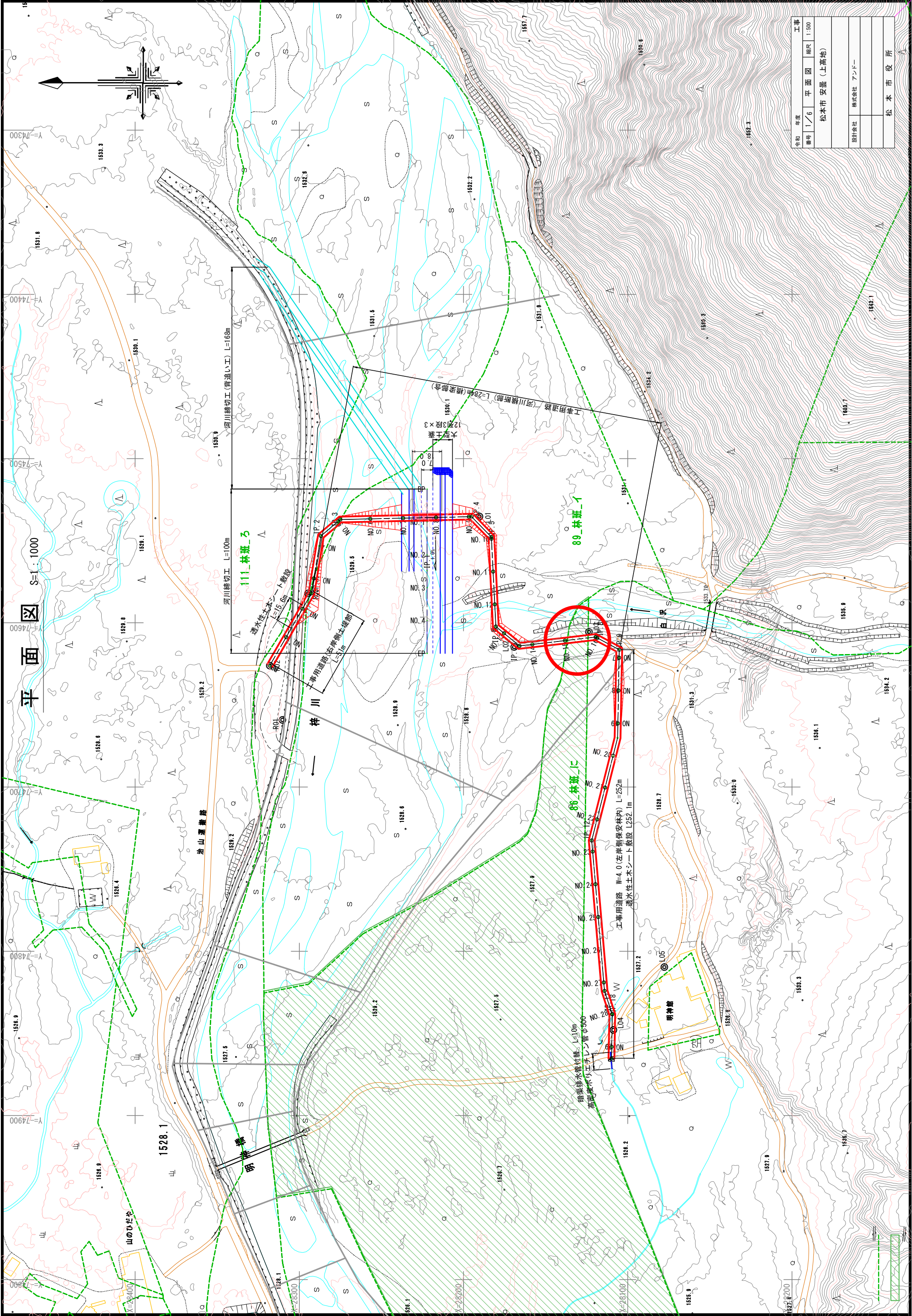
用途別面積

林小班	用途	面積
上高地国有林86い	工事用道路	1092.4 m ²
86に	工事用道路	50.8 m ²
86イ	工事用道路	1320.7 m ²
	仮設水路	1920.0 m ²
	大型土嚢	36.0 m ²
	仮設橋梁	72.0 m ²
	締切工	144.0 m ²
111イ	工事用道路	1609.9 m ²
	締切工	600.0 m ²

○工事期間：調整中

○工事支障木：無

○その他：添付資料（工事位置図、工事箇所写真）



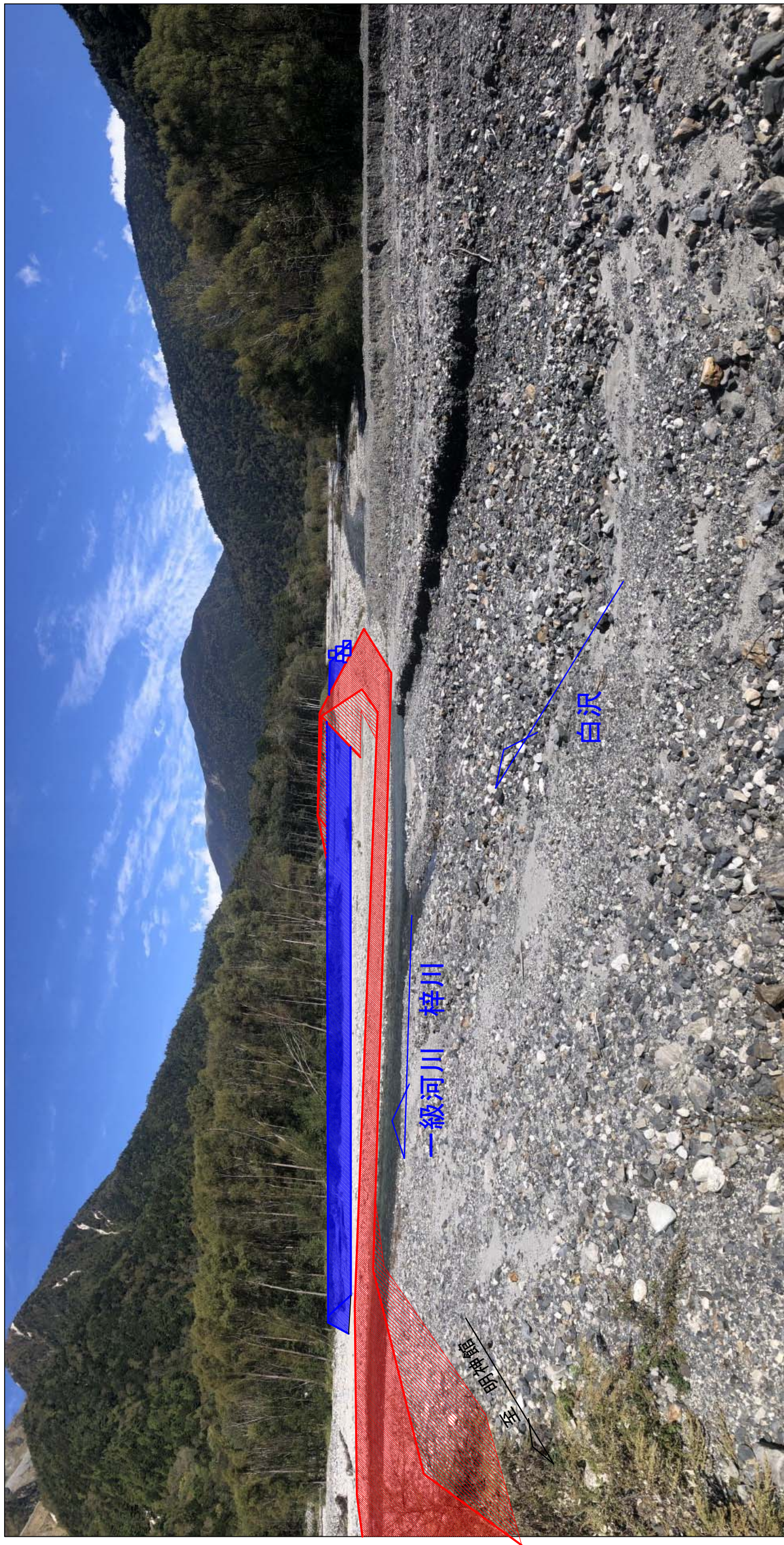
令和 年度	工事
番号 1/6	平面図 縮尺 1:500
松本市 安曇 (上高地)	
設計会社	株式会社 アンドー
	松本市役所

①



②





保護林内行為報告②

行為名：河床上昇緩和対策試験掘削

○保護林名：上高地ケシ ヨウヤナギ希少個体群保護林

○申請者：国土交通省北陸地方整備局松本砂防事務所長

○目的：近年、白沢において土砂流出が頻発し、登山道橋付近での堆積や溢水など被害が生じているため、河床上昇への対策検討が必要となっている。このため、流量・土砂量・粒径・移動状況等の基礎データを把握することを目的として、試験掘削およびモニタリングを実施するものである。

○工事概要

用途面積：8, 407.78 m²

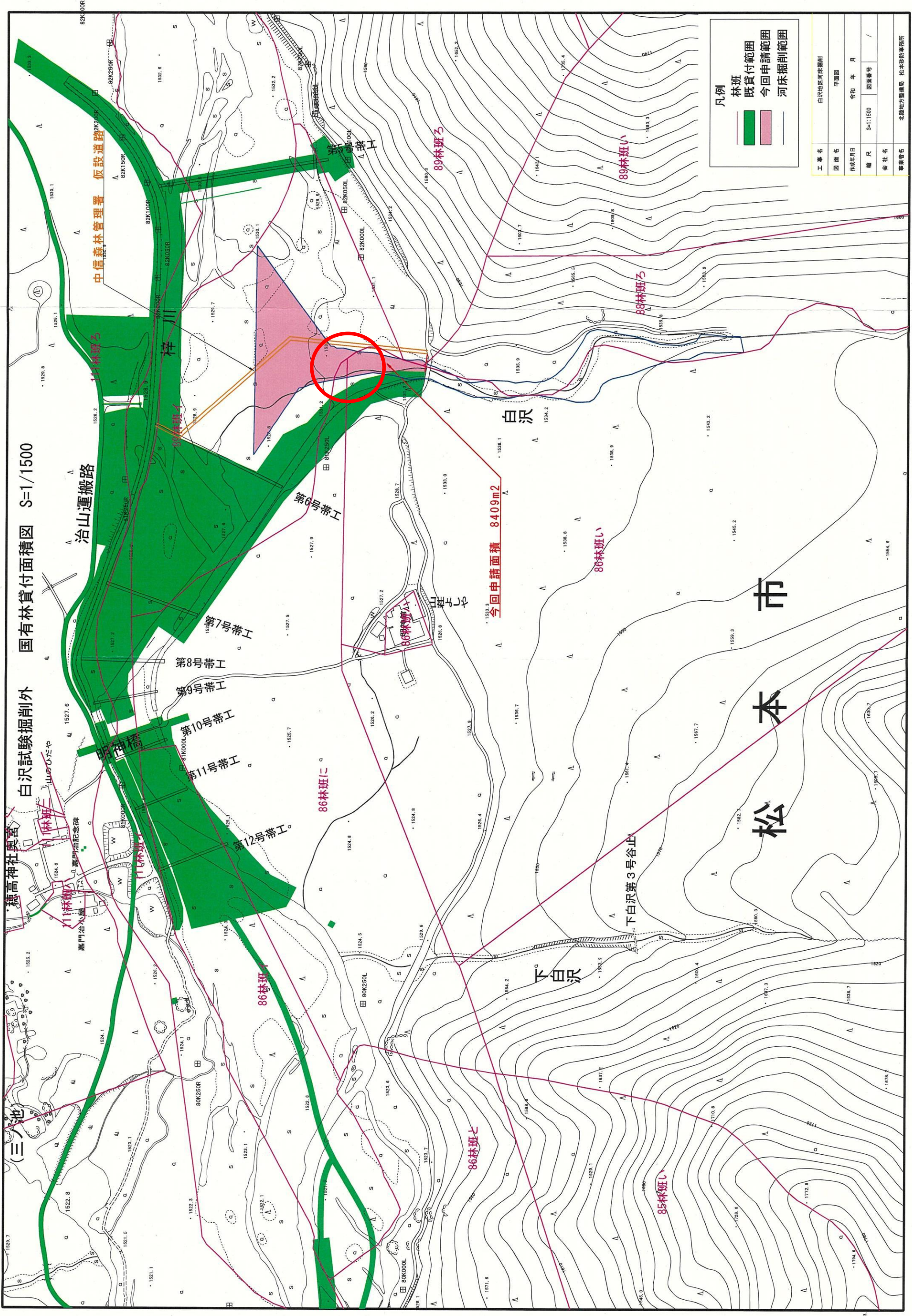
用途別面積

林小班	用途	面積
上高地国有林89イ	試験掘削及び作業敷	7155.50 m ²
86に	試験掘削及び作業敷	141.97 m ²
86い	試験掘削及び作業敷	1051.93 m ²
89ろ	試験掘削及び作業敷	54.63 m ²
88ろ	試験掘削及び作業敷	3.75 m ²

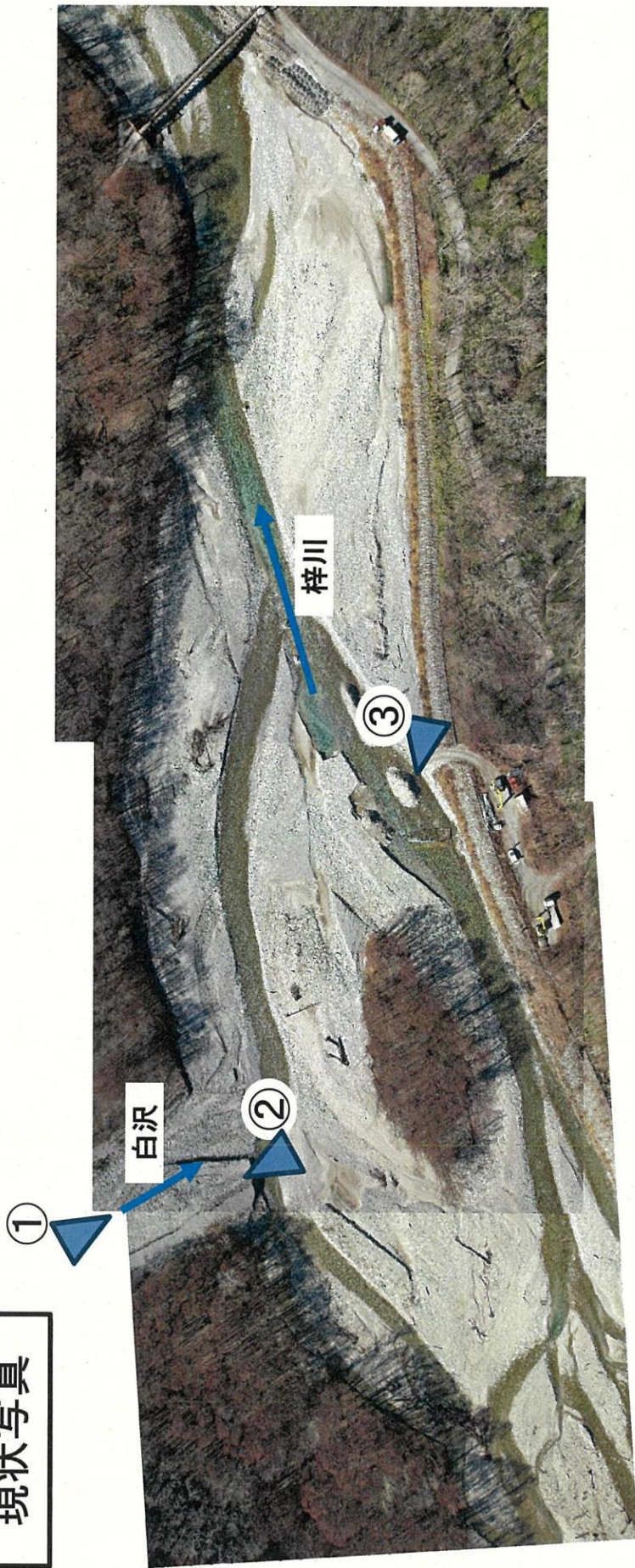
○工事期間：承認の日から～令和11年3月31日

○工事支障木：無

○その他：添付資料（工事位置図、工事箇所写真）



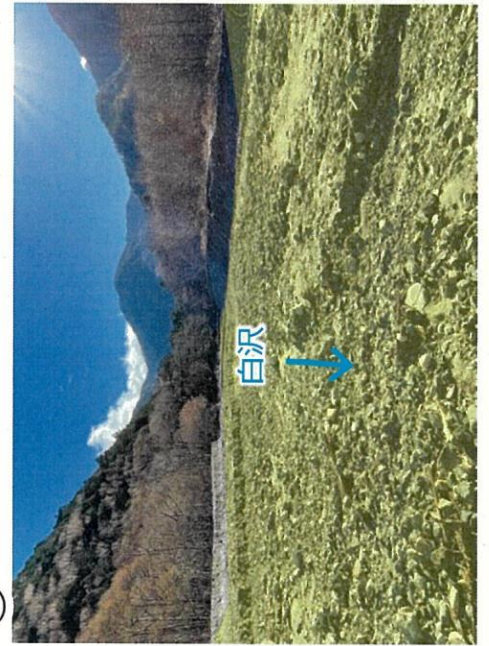
現状写真



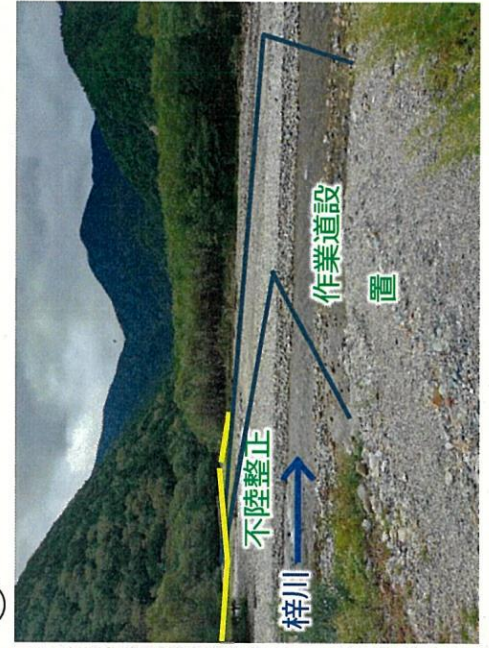
①



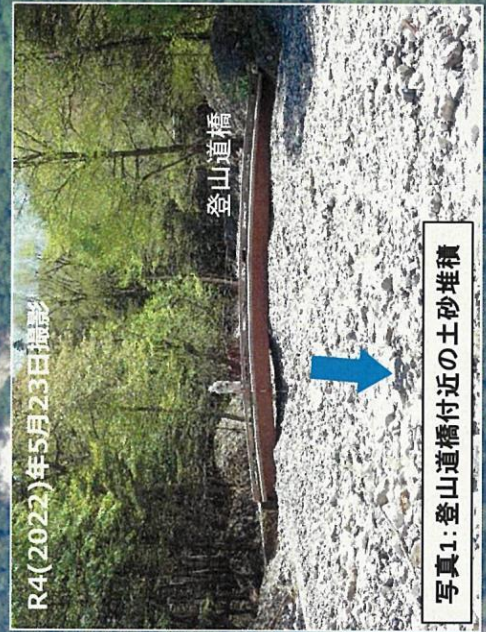
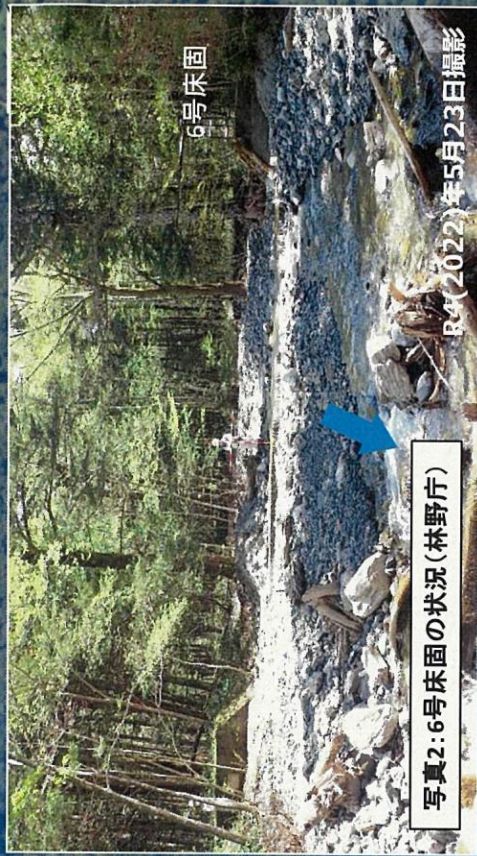
②



③



2. 白沢の試験土砂掘削予定地



簿
查
調
林
森

林班：0086-0
森林管理署：400 中信

担当区(森林事務所)： 110 上高地
官行造林地：

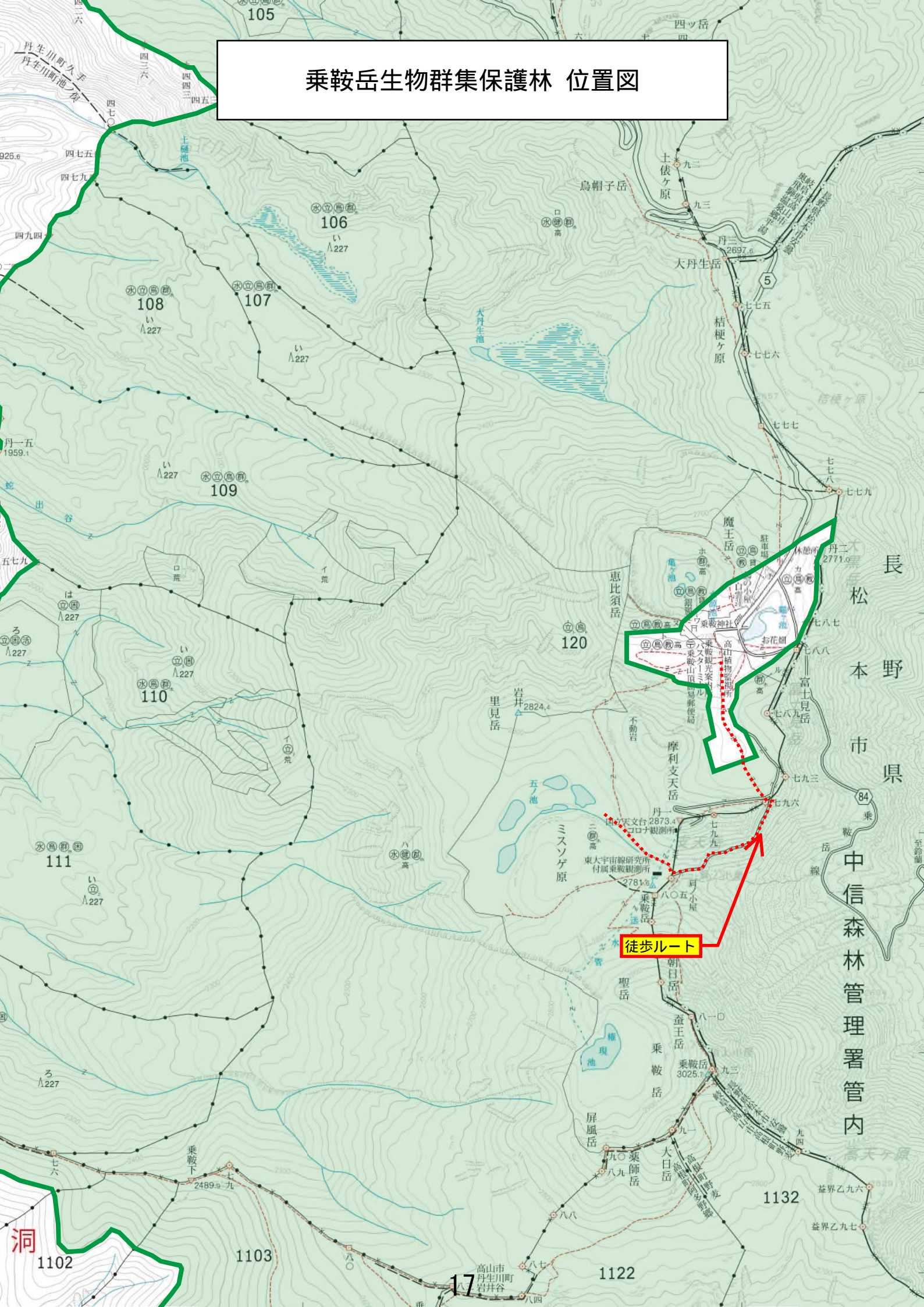
森林計画区：65中部山地

令和07年03月31日樹立

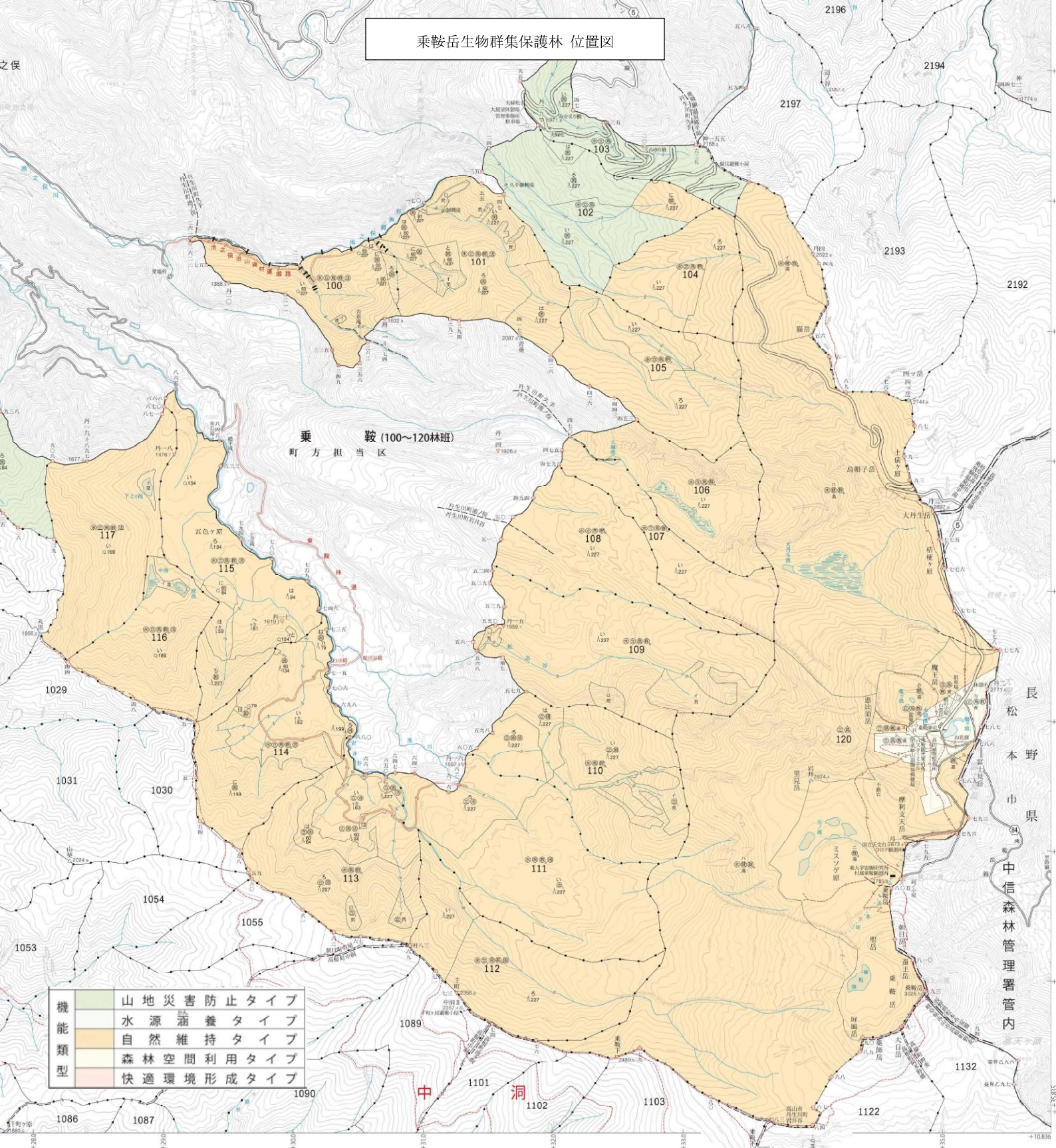
[illegible]

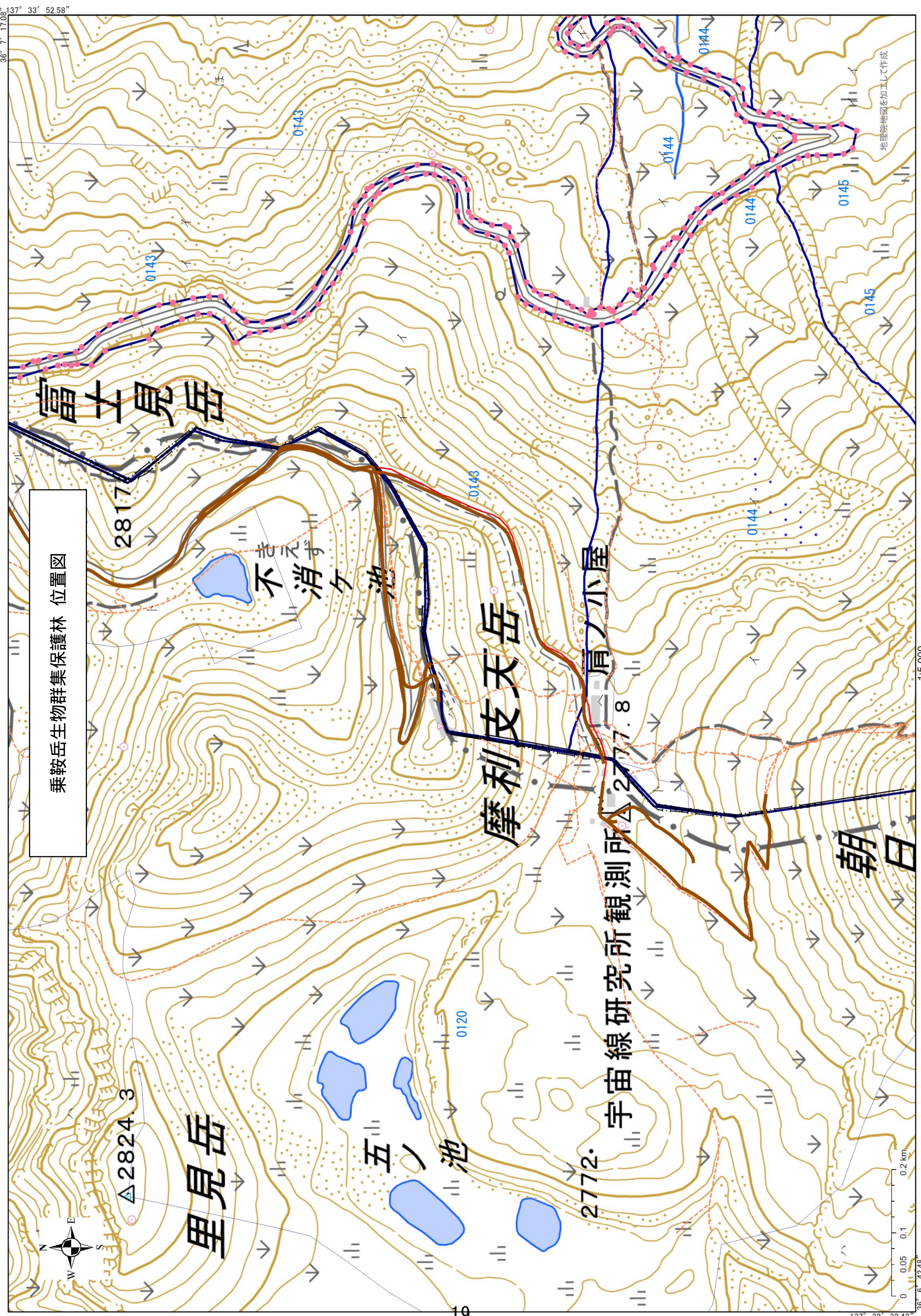
乗鞍岳生物群集保護林内の乗鞍岳五ノ池 周辺の利用について

乗鞍岳生物群集保護林 位置図



乗鞍岳生物群集保護林 位置図





乗鞍岳生物群集保護林 位置図

地理院地図を加工して作成

1:5,000

乗鞍岳五ノ池の利用について（令和8年度現地検討）

1 経緯

- ▶ 高山市や地域関係者等から五ノ池をガイド付きでのツアー等に利用できないかとの声があり、環境省がその対応策を検討
- ▶ 対応策として、利用者の人数調整を検討（例えば、自然公園法に基づく利用調整地区制度を活用する等）

2 五ノ池の現状

- ▶ 五ノ池は昭和40年代の入林による植生荒廃により、高山営林署（当時）が立入禁止区域とした
- ▶ 現在は登山道の整備等はされておらず、一般向けには入林禁止のまま
- ▶ 五ノ池は乗鞍岳生物群集保護林（保存地区）に設定（平成30年度）

3 保護林管理委員会においてご検討いただきたい事項

- ▶ 自然の推移に任せることとしている当該保護林における管理上の懸念
例えば、歩道の整備による植生への影響
- ▶ 仮に利用させることとした場合の管理等に係る留意点

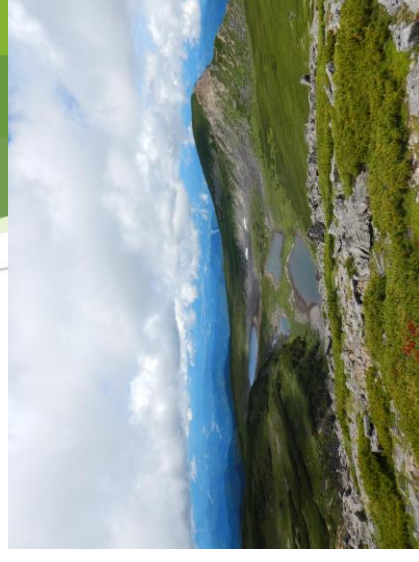
○乗鞍岳生物群集保護林

面積：5,739.68ha

設定：平成30年4月1日

（特定地理：平成19年度設定）

目的：乗鞍岳山頂部に広がる火山群、カルデラ（湖沼）等の特徴ある地形・地質と亜高山帯から高山帯に分布する植生等により構成される生態系を一体的に保護すること



（参考）乗鞍岳エコツアーリズム推進全体構想（岐阜県中部山岳国立公園活性化推進協議会）における「五ノ池」に関する記載内容

P16 地形・地質 湖沼（乗鞍岳の湖沼）

五ノ池は里見岳の南麓にある堰止湖です。室堂ヶ原を源とする赤川の一源流が、一ノ池火山帯の第五溶岩によってせき止められてできた池で、五つの池が数珠玉のようにつながっています。東から一ノ池、二ノ池、三ノ池、四ノ池、五ノ池の順に呼ばれますが、一ノ池から三ノ池までは標高2,700mの所にあり、四ノ池と五ノ池はそれより低い所にあります。池の周りにはハクサンイチゲ、コバイケイソウ、チングルマ、ウサギグクなどが咲き、亀甲砂礫の現象もみられます。豊水期になると、5つの池が1つの大湖沼になります。

P49 4. 自然観光資源の保護及び育成 4.1 利用の制限が必要な自然観光資源（特定自然観光資源）の指定について

（前略）「五ノ池周辺」など、貴重な自然環境を保護しながらツアーの実施を検討しているエリアについては、特定自然観光資源への指定について検討を行います。（後略）

森林調査簿

林班：0120-0
森林管理署：800 飛騨

担当区（森林事務所）：150 町方
官行造林地：森林計画区：69 宮・庄川

令和06年03月31日樹立

都道府県／市町村／国有林野名等	要存置区分／対象森林の区分	小班／旧小班	機能の種類 木／水／山／快／保	機能類型／機能類型の細分	施業群／保護林等	公益施業／区分／林保／搬出方法特定等	法指定等／自然公園等の名称	保安施業要件 伐採方法／植栽指定	施業方法／細分／長期育成／林地等区分	面積		林										状況				施業履歴				地位等				地況				観察記録 年月／種類／内容／情報別／他種	検索方法 基本図番号／空中写真番号	備考																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
										林地／その他区分／合計／採取区	面積 ha	林種／林種の細分／林相疎密度	樹種	点生木・被害木	層区分	混交歩合	面積歩合	林齢	胸高直径	樹高	ha当り本数	材ha当り	材積総数	連年成長量	成長率	主伐年／伐採方法	間伐年／伐採率／伐採量／面積	伐度	更新年度	地等級	立地級	樹種	地歩合	地利	地級	傾斜／土壌／土質地	水土保全有効深度／局所地形／土性／堆積型				下層植物種類／被度／高さ	子林区径分区／層構造	森林帯／高標／温度指数／降水量／林道の距離	方位／風害／雪害／霜害	年月／種類／内容／情報別／他種																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																												
212030596 伊豆群集保	要	イ	L H H L H	自然	群集保	力林	水涵保健保特鳥保中部乗鞍岳	択無	雑	林地 シ賃*高山小計 合計	000 209 6287 6496 6496	林種／林種の細分／林相疎密度																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													</

3. 10. 上高地ケショウヤナギ希少個体群保護林（3-13）※希少種が含まれる情報は公開していません。



保護林概観



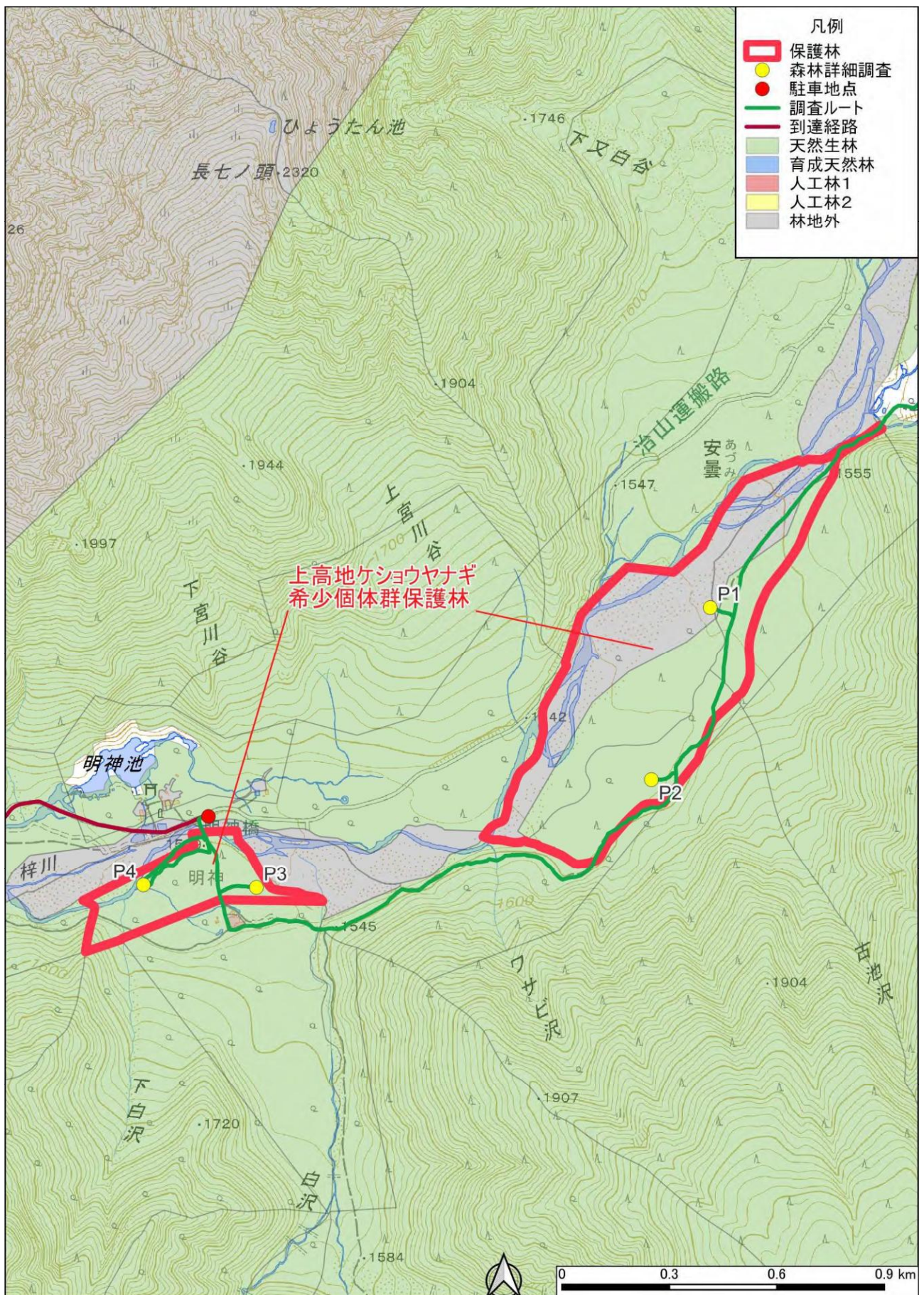
ケショウヤナギの若齢林

(1) 保護林の概要

項 目	詳 細
旧保護林名※	上高地ケショウヤナギ等林木遺伝資源保存林 上高地ケショウヤナギ植物群落保護林
森林管理署・森林事務所	中信森林管理署 上高地森林事務所
国有林名 林小班	上高地国有林 86 に林小班
所在市町村名	長野県松本市
面積	50.90 ha
設定年月日	平成3年3月31日（大正5年学術参考保護林）（平成30年4月1日再編）
設定目的	ケショウヤナギは昭和3年に我が国で最初に発見され、国内では長野県上高地周辺の限られた地域と北海道にのみ分布する希少樹種であるため、ケショウヤナギの群落及びケショウヤナギが更新可能な氾濫原となる砂礫地を保護することを目的とする。
地況・林況	梓川本流の中で最も川幅が広い明神橋から徳沢間に位置し、そのほとんどが氾濫原である。 群落が生育する砂礫地（今後ケショウヤナギの更新が期待できる氾濫原を含む）には、ケショウヤナギの稚樹や大木が生育している。 また、ヤマハンノキを主体とし、ヤマザクラ、シナノキ、ウラジロモミ、ハルニレ等の広葉樹の混交する天然林となっている。
法指定等	水源涵養保安林、砂防指定地、保健保安林、中部山岳国立公園特別保護地区、特別史跡名勝天然記念物、鳥獣保護区（普通地区）
過去の施業経過	強度の択伐施業
今後の保護・管理及び利用の方針	原則として伐採は行わない。ただし、保存対象樹種の安定的かつ恒久的な存続を図るために必要な場合は、枯損木及び被害木の除去を中心とした弱度の択伐を行う。
調査項目（現地調査日）	森林詳細調査（令和5年9月22～24日）、森林概況調査（9月22～24日）、資料調査、聞き取り調査

※林野庁長官通知「保護林制度の改正について（平成27年9月28日付け27林国経第49号）」による保護林再編で、平成30年（2018年）に保護林の名称等が変更となった。

(2) 調査位置図

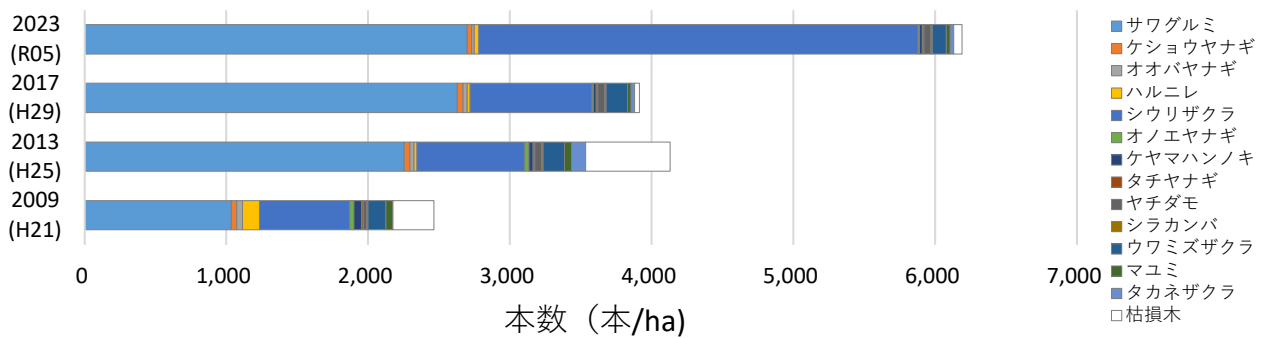
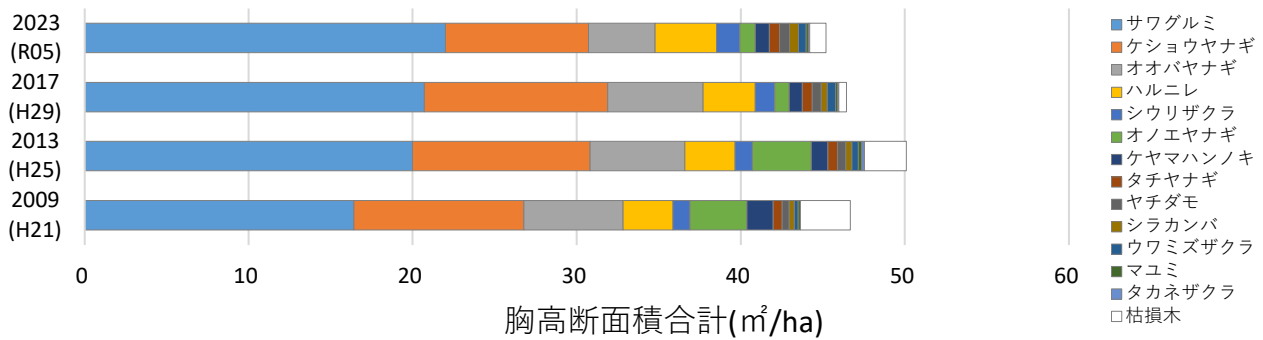


3) プロット 3 (旧上高地ケショウヤナギ等林木遺伝資源保存林プロット 1)

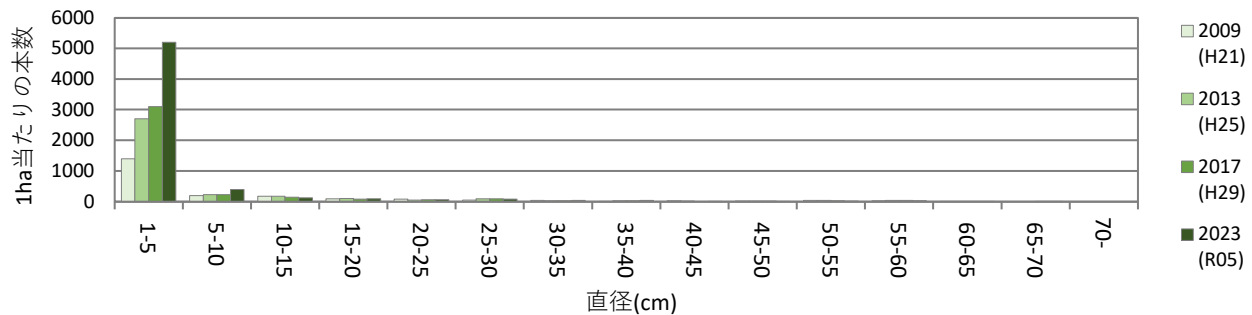
保護林南東部(標高約 1,530m)に位置する。高木層にケショウヤナギが優占し、サワグルミやハルニレが混生する高木林で、比較的発達した林分である。

調査年月日	緯度 (世界測地系)	緯度 (世界測地系)	標高 (m)	小林班	方位	傾斜 (°)
既往調査 1: 2009 年(平成 21 年)8 月 19 日	N36 度 15 分 03.12 秒	E137 度 40 分 04.58 秒	1,530	86 に	—	0
既往調査 2: 2013 年(平成 25 年)9 月 7 日						
既往調査 3: 2017 年(平成 29 年)7 月 21 日						
現地調査: 2023 年(令和 5 年)9 月 23 日						

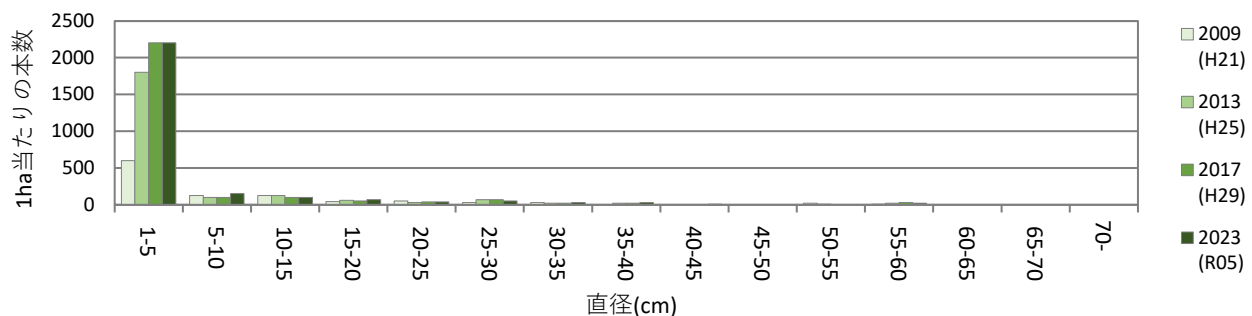
① 立木調査結果



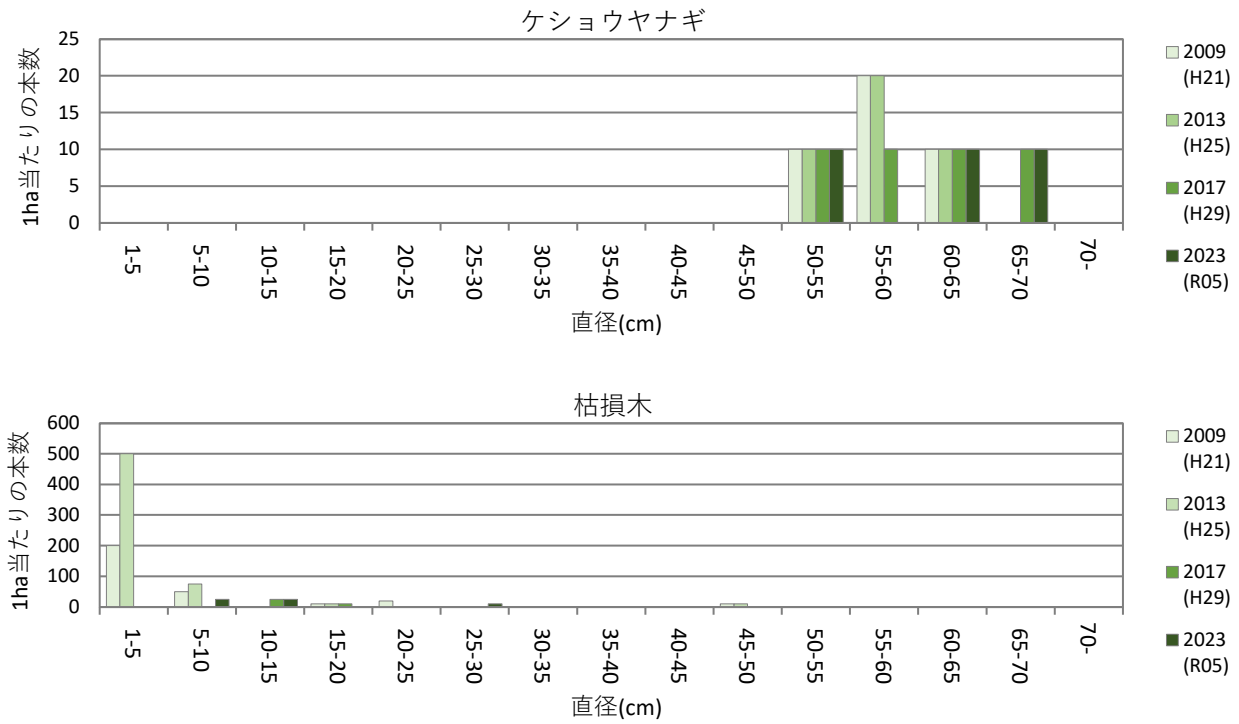
全木



サワグルミ



3. 10. 上高地ケシ ヲ ヤナギ 希 少 個 体 群 保 護 林



●比較結果（1ha 換算）

No.	樹 種	本数（本/ha）					胸高断面積合計(m ² /ha)					剥皮率(%)			
		2009 (H21)	2013 (H25)	2017 (H29)	2023 (R05)	増加率	2009 (H21)	2013 (H25)	2017 (H29)	2023 (R05)	増加率	2009 (H21)	2013 (H25)	2017 (H29)	2023 (R05)
1	サウグルミ	1035	2255	2630	2700	3%	16.42	20.00	20.72	22.00	6%	0%	0%	0%	0%
2	ケシ ヲ ヤナギ	40	40	40	30	-25%	10.37	10.82	11.18	8.72	-22%	0%	0%	0%	0%
3	オオバヤナギ	40	30	30	20	-33%	6.04	5.77	5.80	4.07	-30%	0%	0%	0%	0%
4	ハルニレ	120	20	20	30	50%	3.05	3.07	3.18	3.74	17%	0%	0%	0%	0%
5	シウリザクラ	635	760	860	3100	260%	1.02	1.05	1.19	1.43	21%	0%	0%	0%	0%
6	オノエヤナギ	30	30	10	10	0%	3.47	3.60	0.89	0.93	5%	0%	0%	0%	0%
7	ケヤマハンノキ	55	30	20	20	0%	1.60	1.02	0.79	0.87	10%	0%	0%	0%	0%
8	タチヤナギ	10	10	10	10	0%	0.55	0.58	0.62	0.61	-1%	0%	0%	0%	0%
9	ヤチダモ	25	50	50	50	0%	0.44	0.51	0.54	0.60	12%	0%	0%	0%	0%
10	シラカンバ	10	10	10	10	0%	0.31	0.37	0.38	0.56	47%	0%	0%	0%	0%
11	ウワミズザクラ	125	150	150	100	-33%	0.23	0.39	0.51	0.47	-9%	0%	0%	0%	0%
12	マユミ	50	50	25	25	0%	0.14	0.20	0.14	0.14	2%	0%	0%	0%	0%
13	タカネザクラ	0	100	25	25	0%	0.00	0.15	0.05	0.07	24%	0%	0%	0%	0%
14	枯損木	290	595	35	60	71%	3.05	2.57	0.46	1.00	116%	-	-	-	-
	全木(枯損木を除く)	2175	3535	3880	6130	58%	43.63	47.53	45.98	44.20	-4%	0%	0%	0%	0%

■：保護対象種、■：前回調査比25%以上増加、■：前回調査比25%以上減少

※胸高直径1cm以上の立木を集計

●集計結果（各円部）

円部	樹種	本数	胸高直径(cm)			樹高(m)			枯損率(%)	剥皮率(%)	空洞率(%)	胸高断面積 合計(m ² /ha)
			最小	平均	最大	最小	平均	最大				
小円部	サワグルミ	32	1.0	5.3	23.4	1.9	4.9	14.1	6%	0%	0%	3.6
	シウリザクラ	31	1.0	2.3	12.3	2.0	3.1	8.9	0%	0%	0%	1.2
	ケショウヤナギ	2	53.8	57.8	61.7	26.1	26.7	27.3	0%	0%	0%	5.3
	ハルニレ	2	37.6	45.7	53.8	21.9	23.7	25.4	0%	0%	0%	3.4
	ウワミズザクラ	2	5.9	7.4	8.9	4.2	6.1	8.0	0%	0%	0%	0.2
	タカネザクラ	1	5.8	5.8	5.8	4.4	4.4	4.4	0%	0%	0%	0.1
中円部	サワグルミ	13	6.2	21.0	58.5	6.0	15.6	27.4	0%	0%	0%	7.6
	シウリザクラ	4	5.0	11.1	27.7	4.9	6.6	10.5	25%	0%	0%	0.8
	ヤチダモ	2	6.8	11.5	16.1	5.2	10.4	15.5	0%	0%	0%	0.6
	ウワミズザクラ	2	5.8	7.7	9.5	5.5	6.4	7.3	0%	0%	0%	0.2
	ケショウヤナギ	1	66.3	66.3	66.3	27.1	27.1	27.1	0%	0%	0%	3.5
	オノエヤナギ	1	34.4	34.4	34.4	21.1	21.1	21.1	0%	0%	0%	0.9
	マユミ	1	8.5	8.5	8.5	4.1	4.1	4.1	0%	0%	0%	0.1
大円部	サワグルミ	14	19.1	31.4	57.2	15.7	20.9	26.9	0%	0%	0%	11.2
	オオバヤナギ	2	46.4	50.7	55.0	21.0	21.7	22.3	0%	0%	0%	4.1
	ケヤマハンノキ	2	20.4	23.4	26.3	18.3	18.4	18.5	0%	0%	0%	0.9
	タチヤナギ	1	27.9	27.9	27.9	13.5	13.5	13.5	0%	0%	0%	0.6
	シラカンバ	1	26.7	26.7	26.7	22.3	22.3	22.3	0%	0%	0%	0.6
	ハルニレ	1	21.3	21.3	21.3	13.7	13.7	13.7	0%	0%	0%	0.4
合計		115	0.0	13.9	66.3	0.0	9.6	27.4	3%	0%	0%	45.2

■：保護対象種

※胸高直径1cm以上の立木を集計

群落全体の胸高断面積合計は近年減少傾向であり、ケショウヤナギ、オノエヤナギ、オオバヤナギといったヤナギ類の減少が目立つ。また立木本数ではサワグルミが多く、近年ではシウリザクラが増加している。先駆的なヤナギ林からサワグルミ林へ森林が遷移しつつあると推測される。

なお、ニホンジカ等による剥皮は確認されなかった。

② 下層植生調査結果

●植生調査区における調査結果

林床調査区		N 区		S 区		
下 層 植 生	階層	低木層		草本層		
	高さ	1.0～2.4	m	0～1.0	m	
	植被率	20	%	90	%	
植 生	優占種	ウワミズザクラ		アズマヤマアザミ		
	植物種	和名		和名		
	（低木層 草本層 着生植物）	被度・群度		被度・群度		
		低木層	草本層	低木層	草本層	
		ウワミズザクラ	1・1	サワグルミ	1・2	
		アズマヤマアザミ	+	3・3	サラシナショウマ	+
	（植生調査区 内に根元が ある）	ハルニレ	+		アズマヤマアザミ	+
		サワグルミ	+		ズダヤクシュ	
		サラシナショウマ		2・2	スゲ属sp.	
		ラショウモンカズラ		2・2	オオバコウモリ	
		ネコノメソウ属sp.		1・2	フッキソウ	
		ミヤマカタバミ		1・1	フキ	
		フキ		+	ラショウモンカズラ	
		ダイコンソウ		+	ミヤマイボタ	
		オシダ		+	エゾイラクサ	
		ムカゴトラノオ		+	エンレイソウ	
		クルマムグラ		+	キツリフネ	
		ツルマサキ		+	クルマムグラ	
		フッキソウ		+	サワギク	
		ミヤマイボタ		+	ネコノメソウ属sp.	
		オオバコウモリ		+	ミヤマハコベ	
		エゾイラクサ		+	ミヤマカタバミ	
		カントウマユミ		+		
		イネ科sp.		+		
		テンナンショウ属sp.		+		
		サワギク		+		
	クサソテツ		+			
キツリフネ		+				
ヒカゲミツバ		+				
サンヨウブシ		+				
植生調査区外の 特記種						

●プロット内の下層植生における出現種

種名	2009 (H21)	2013 (H25)	2017 (H29)	2023 (R5)	種名	2009 (H21)	2013 (H25)	2017 (H29)	2023 (R5)
クサソテツ	○	○	○	○	オオタチツボスミレ				○
オシダ	○	○	○	○	ツボスミレ			○	
テンナンショウ属sp.		○	○	○	オオバヤナギ	○			
エンレイソウ	○	○	○	○	オノエヤナギ	○	○	○	
ユキザサ			○		トチノキ	○	○	○	
ヤマトユキザサ				○	シナノキ	○			
スゲ属sp.	○	○	○	○	ムカゴトラノオ				○
イネ科sp.				○	ミヤマタニソバ		○	○	
■■■■■			○		ミゾソバ	○			
■■■■■				○	ミヤマハコベ				○
ヤマトリカブト	○	○	○		バイカウツギ	○	○	○	
サンヨウブシ				○	キツリフネ				○
サラシナショウマ	○	○	○	○	クルマムグラ	○	○	○	○
カラマツソウ	○	○	○		クルマバソウ			○	
フッキソウ	○	○	○	○	アオダモ	○	○	○	
ネコノメソウ属sp.		○		○	ミヤマイボタ	○	○	○	○
ズダヤクシュ	○	○	○	○	オオバコ	○			
オニシモツケ		○	○		ミヤマトウバナ	○	○	○	○
ダイコンソウ		○	○	○	コウシンヤマハッカ	○	○	○	
ウワミズザクラ	○	○	○	○	ラショウモンカズラ	○	○	○	○
シウリザクラ	○	○	○		ツルツゲ			○	
■■■■■					アズマヤマアザミ	○	○	○	○
クロウメドキ	○				ノリクラアザミ	○			
ハルニレ	○	○	○	○	メタカラコウ	○	○	○	○
ムカゴイラクサ		○	○		サワギク	○	○	○	○
ホソバイラクサ	○	○	○		コウモリソウ				○
エゾイラクサ				○	ヨブスマソウ	○	○	○	
ミヤマニガウリ	○	○	○	○	フキ	○	○	○	○
サワグルミ	○	○	○	○	ハンゴンソウ	○			
ケヤマハンノキ	○	○	○		ニフトコ	○	○	○	○
ダケカンバ	○	○	○		カンボク	○	○	○	
ツルマサキ	○	○	○	○	トチバニンジン				○
カントウマユミ				○	ヤマゼリ	○	○	○	
マユミ	○	○	○		ウマノミツバ	○	○	○	
ミヤマカタバミ	○	○	○	○	ヒカゲミツバ				○
計						45	44	49	38

下層植生調査の結果、低木層はウワミズザクラやサワグルミ、草本層はアズマヤマアザミやズダヤクシュが優占していた。また、プロット内の出現種数は既往調査よりやや減少していた。■■■■■が確認された。



P3 下層植生（北）



P3 下層植生（南）

③ 気象害・病虫獣害等の発生状況調査

項目	発生状況
気象害	・ 特になし。
病虫獣害	・ 獣道は確認されたが剥皮は確認されておらず、森林の健全性は保たれている（シカ被害レベル 0）。

④ 定点写真

	2009 年 (H21)	2017 年 (H29)	2023 年 (R05)
北			
東			
南			
西			
上			

大きな変化は確認されなかった。